

[成果情報名] モモ「さくひめ」のハウス栽培における生育相と生育日数

[要約] 「日川白鳳」の自発休眠覚醒期と同時期に保温を開始した「さくひめ」は、保温開始から満開までの日数は約 30 日、硬核期は満開後約 55～70 日、満開から収穫盛期までの日数は約 90 日である。「日川白鳳」と比較して、保温開始から満開までの日数が少なく、満開から収穫盛期までの日数が多く、収穫盛期は約 5 日早い。

[キーワード] さくひめ、ハウス栽培、生育相、生育日数、硬核期

[担当] 長崎県農林技術開発センター・果樹・茶研究部門・ビワ落葉果樹研究室

[連絡先] (代表) 0957-55-8740

[区分] 果樹

[分類] 指導

[作成年度] 2019年度

[背景・ねらい]

農研機構育成のモモ「さくひめ」は低温要求量が少なく、温暖化対応品種として普及が見込まれており、現地への円滑な導入のために生育特性の解明が求められている。

そこで、本研究ではハウス栽培における「さくひめ」と主要品種「日川白鳳」の生育相（開花盛期、硬核期、収穫盛期）と生育日数を明らかにし、作型検討や管理時期の目安とする。

[成果の内容・特徴]

1. 保温開始から満開までの日数は、「さくひめ」は約 30 日、「日川白鳳」は約 40 日であり、「さくひめ」は「日川白鳳」と比較して約 10 日少ない（表 1、図 1）。
2. 硬核期は、「さくひめ」は満開後約 55 日から 70 日、「日川白鳳」は満開後約 45 日から 60 日である。「さくひめ」は「日川白鳳」と比較して、硬核開始の満開後日数が約 10 日遅く、硬核期間はほぼ同じである（表 1、図 1、図 2）。
3. 満開から収穫盛期までの日数は、「さくひめ」は約 90 日、「日川白鳳」は約 80 日であり、「さくひめ」は「日川白鳳」と比較して約 10 日多い（表 1、図 1）。
4. 収穫盛期（月日）は、「さくひめ」は「日川白鳳」と比較して約 5 日早い（表 1、図 2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本研究は果樹・茶研究部門内の「さくひめ」と「日川白鳳」の混植園における調査結果で、台木はともに「オキナワ」である。調査は加温栽培では 2018～2019 年の 2 ヶ年間、無加温栽培では 2017～2019 年の 3 ヶ年間行った。
2. 保温開始は、加温栽培は DVI 値平均 1.0（7.2℃以下低温遭遇平均 704 時間）、無加温栽培は各年 2 月 5 日（DVI 値平均 1.1、7.2℃以下低温遭遇平均 902 時間）に行い、「さくひめ」、「日川白鳳」とともに自発休眠覚醒に必要な低温要求量を満たした後に行った。保温開始後の温度管理は、加温栽培では最低温度を 6℃から開始し、開花期は 10～12℃で管理した。無加温栽培は保温に努め共に最高気温が 25℃を上回らないように管理した。
3. 硬核期は果実の中央にある核（内果皮）が硬化する時期である。硬核期に果実肥大が促されると核に亀裂が入り、生理落果や変形果発生を助長し生果率が低下するため、この時期の摘果や新梢管理、灌水等の管理を控える。

[具体的データ]

表1 「さくひめ」と「日川白鳳」の生育相

栽培型 ^z	品種	満開期 (月日)	硬核開始 (月日)	硬核終了 (月日)	硬核期間 (日)	収穫盛期 (月日)
加温	さくひめ	2/19	4/15	5/3	18	5/17
	日川白鳳	2/28	4/17	5/2	16	5/23
無加温	さくひめ	3/5	4/28	5/13	16	6/2
	日川白鳳	3/19	5/4	5/20	16	6/7

^z 加温 2018～2019年産平均、無加温 2017～2019年産平均

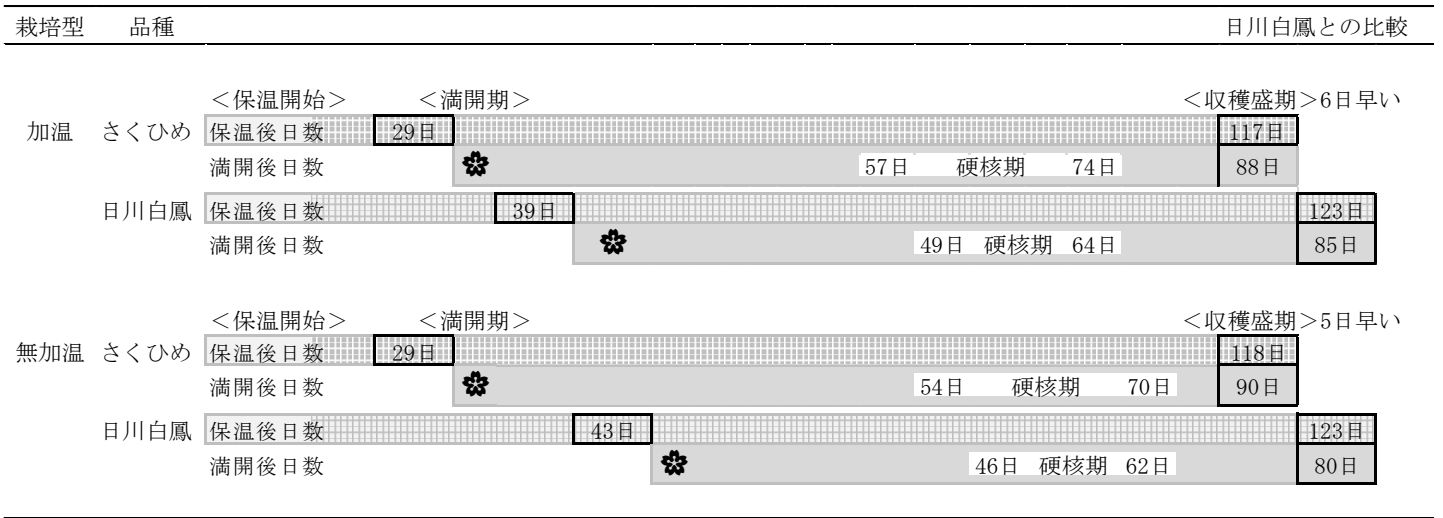


図1 「さくひめ」と「日川白鳳」の生育日数（模式図）
（加温 2018～2019年産平均、無加温 2017～2019年産平均）

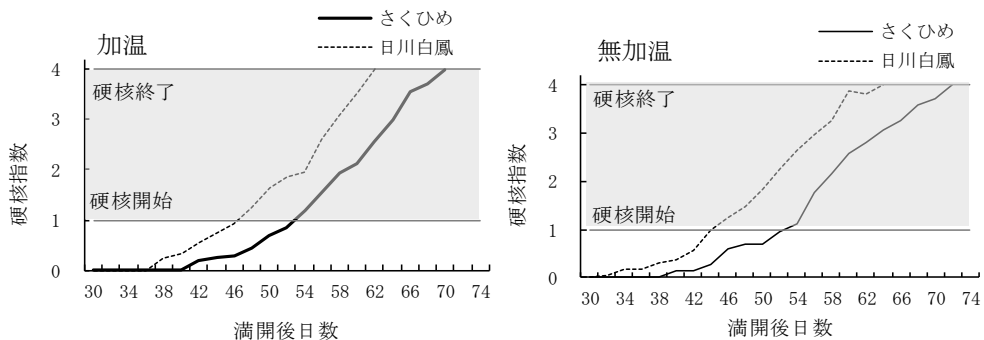


図2 「さくひめ」と「日川白鳳」の満開後日数および硬核指数の関係
（加温 2018～2019年産平均、無加温 2017～2019年産平均）

<硬核時期の判定> 満開後30日目から3～5日毎に果実を10果採取し、フロログルシン塩酸反応（核のリグニン化を染色度合で判別（大浦ら2011, 岡山県農業研報）により硬核度合を調査。調査は6段階で行い、硬核指数の平均が1に達した日を硬核開始日、4に達した日硬核終了とする。

[その他]

研究課題名：モモ有望品種「さくひめ」のハウス栽培技術の確立
 予算区分：県単
 研究期間：2017～2021年度
 研究担当者：松本紀子